

企業等に対する卒業生に関するアンケートについて（ご報告）

I R 室

教育成果や課題を把握するため、2018 年度から企業等を対象に、本学卒業生に対する社会からの評価についての調査を実施しています。

2019 年度については、2018 年度の調査結果を受け、コミュニケーション能力、実社会において必要と考える能力についての二次的なアンケートを実施しました（2019 年 12 月～2020 年 2 年 1 月に教務課・キャリアサポート課が実施）。

なお、能力評価については、2012 年度改訂カリキュラム以前の教育課程による卒業生に関するものとなります。

【結果概要（別紙集計データ参照）】

<全体>

- ・回答要請企業等数は、過去 7 年間で 3 名以上の内定があった企業等 168 社であり、回答数が 61 社（約 36%）となった。
- ・回答企業等の所在地は、大阪（34%）、東京（16%）、兵庫（7%）、京都（5%）、広島（5%）が主である。
- ・回答企業等の業種は、薬局（31%）、病院（30%）、製薬企業（16%）、ドラッグストア（13%）、その他（10%）という構成である。
- ・卒業生の進路・就職状況から教育成果等を検討し、また、企業等がどのような能力・資質等を求めているかを確認するため、「グループ①：病院、薬局、ドラッグストア」「グループ②：製薬企業、化学系企業、食品系企業、公務員（病院）、公務員（行政）、教育機関、その他」に区分して、以下のとおり、結果確認を進めた。

<問 2：「コミュニケーション能力」として本学卒業生に身に付いている要素>

○2018 年度調査の結果、「本学の卒業生に身に付いている能力」として「コミュニケーション能力」が上位となったことを受け、どのような要素が身に付いているかを調査した。

- ・コミュニケーション能力の要素として、「丁寧に傾聴することができる」「適切にわかりやすく伝えることができる」「的確に質問できる」「心開かれた雰囲気形成することができる」「環境に応じた役割を果たすことができる」「相手の気持ちを尊重することができる」「異なる意見に対し謙虚に行動できる」「合意形成できる」「人に好感を与えることができる」「人を動かすことができる」の区分で調査した。

○グループ毎の回答比較

	グループ①	回答数	グループ②	回答数
上位	丁寧に傾聴することができる	34 (18%)	丁寧に傾聴することができる	13 (20%)
	適切にわかりやすく伝えることができる	26 (14%)	人に好感を与えることができる	10 (16%)
	環境に応じた役割を果たすことができる	26 (14%)	適切にわかりやすく伝えることができる	8 (13%)
	相手の気持ちを尊重することができる	26 (14%)	心開かれた雰囲気を形成することができる	7 (11%)
	人に好感を与えることができる	21 (11%)	相手の気持ちを尊重することができる	7 (11%)
下位	人を動かすことができる	6 (3%)	合意形成できる	2 (3%)
	合意形成できる	5 (3%)	人を動かすことができる	1 (2%)

- ・「丁寧に傾聴することができる」については、両グループで最上位となっている。
- ・「人を動かすことができる」「合意形成できる」が両グループで下位となっている。
- ・グループ①では「環境に応じた役割を果たすことができる」が上位、グループ②では「心開かれた雰囲気を形成することができる」が上位となっている。また、グループ②では「人に好感を与えることができる」の割合が高い。

<問3：「実社会において必要と考える能力」発揮と「本学 DP に掲げる各能力」養成との関連>

○2018 年度調査の結果、「実社会において必要と考える能力」で回答が多かった順は、下表のとおり、上位から「コミュニケーション能力」「問題発見・解決能力」…「社会問題の理解」「語学力・国際感覚」「文章表現力」であった。

○社会ニーズを調査するため、「実社会において必要と考える能力」で回答が多かった順序を踏まえ、それぞれの「実社会において必要と考える能力」を本学学生が発揮していくためには、どの「本学 DP（ディプロマ・ポリシー）に掲げる各能力」を養成することが関連するのかが調査した。

○2018 年度調査の結果、「本学 DP に掲げる各能力」で本学学生に身に付いているという評価が高かった順は、下表のとおり、上位から「薬剤師としての心構え」「患者・生活者本位の視点」「コミュニケーション能力」…「教育・指導能力」「文章表現力・数的処理能力」「国際感覚・異文化理解」であった。

○加えて、関連すると考える能力の中でも、「重要だと考える能力」についても調査した。

○回答に配点した結果確認

<グループ① 病院、薬局、ドラッグストア>

I の能力を発揮するためには、 どの II の能力を養成することが 関連するののか？ →		II. 本学が学生に身に付けさせたい能力 (DP に掲げる能力) ※2018 年度調査で、身に付いているという評価が高い順 (左から上位)												
		薬剤師としての心構え	患者・生活者本位の視点	コミュニケーション能力	自己研鑽	基礎的な科学力	医療における実践的能力 地域の保健・	薬物治療における実践的能力	研究能力	教育・指導能力	文章表現力・数的処理能力	国際感覚・異文化理解	未回答	
【配点】 「関連すると考える能力」…1 点 「重要だと考える能力」…2 点 ※上位 2 位の点数を赤字で示す	I. 実社会において必要と思われる能力 ※2018 年度調査で、必要という回答が多い順 (上から上位)	コミュニケーション能力	30	64		16	3	32	22	2	22	22	14	2
			13%	28%		7%	1%	14%	10%	1%	10%	10%	6%	1%
	問題発見・解決能力	20	28	26	28	20	18	42	28	15	14	2	1	
		8%	12%	11%	12%	8%	7%	17%	12%	6%	6%	1%	0%	
	チームワーク	20	15	80	8	2	21	11	3	20	9	6	1	
		10%	8%	41%	4%	1%	11%	6%	2%	10%	5%	3%	1%	
	倫理観	63	43	9	9	6	14	9	8	8	5	12	2	
		34%	23%	5%	5%	3%	7%	5%	4%	4%	3%	6%	1%	
	積極性・リーダーシップ	14	7	56	27	3	12	16	12	51	10	6	2	
		6%	3%	26%	13%	1%	6%	7%	6%	24%	5%	3%	1%	
	論理的思考力	9	12	10	21	34	16	24	34	11	42	4	2	
		4%	5%	5%	10%	16%	7%	11%	16%	5%	19%	2%	1%	
	専門知識・技能	21	11	3	32	32	32	58	33	11	4	1	2	
		9%	5%	1%	13%	13%	13%	24%	14%	5%	2%	0%	1%	
	自己研鑽	49	24	14		13	18	26	31	16	12	8	4	
		23%	11%	7%		6%	8%	12%	14%	7%	6%	4%	2%	
	企画力・計画力	5	14	32	21	9	18	15	30	30	34	3	2	
		2%	7%	15%	10%	4%	8%	7%	14%	14%	16%	1%	1%	
	自己分析力	18	9	23	52	7	4	7	19	7	18	7	3	
		10%	5%	13%	30%	4%	2%	4%	11%	4%	10%	4%	2%	
幅広い教養	14	16	25	50	23	24	19	24	19	22	35	2		
	5%	6%	9%	18%	8%	9%	7%	9%	7%	8%	13%	1%		
情報リテラシー	17	10	18	33	22	16	16	29	8	26	15	2		
	8%	5%	8%	16%	10%	8%	8%	14%	4%	12%	7%	1%		
社会問題の理解	28	32	16	21	4	36	3	3	4	5	45	2		
	14%	16%	8%	11%	2%	18%	2%	2%	2%	3%	23%	1%		
語学力・国際感覚	4	8	39	34	4	7	6	14	10	36		3		
	2%	5%	24%	21%	2%	4%	4%	8%	6%	22%		2%		
文章表現力	5	11	42	33	4	6	10	19	27		9	1		
	3%	7%	25%	20%	2%	4%	6%	11%	16%		5%	1%		
合計		317	304	393	385	186	274	284	289	259	167	31		
		10%	10%	12%	12%	6%	9%	9%	9%	8%	8%	5%	1%	

<グループ② 製薬企業、化学系企業、食品系企業、公務員（病院）、公務員（行政）、教育機関、その他>

I の能力を発揮するためには、 どのIIの能力を養成することが 関連するのか? →		II. 本学が学生に身に付けさせたい能力 (DPに掲げる能力) ※2018年度調査で、身に付いているという評価が高い順 (左から上位)											
		薬剤師としての心構え	患者・生活者本位の視点	コミュニケーション能力	自己研鑽	基礎的な科学力	医療における実践的能力 地域の保健・	薬物治療における実践的能力	研究能力	教育・指導能力	文章表現力・数的処理能力	国際感覚・異文化理解	未回答
【配点】 「関連すると考える能力」…1点 「重要だと考える能力」…2点 ※上位2位の点数を赤字で示す													
	I 実社会において必要と思われる能力 ※2018年度調査で、必要という回答が多い順 (上から上位)	コミュニケーション能力	2 3%	16 25%	10 13%	6 9%	3 5%	5 8%	3 5%	4 6%	12 19%	9 14%	4 6%
	問題発見・解決能力	3 4%	12 16%	10 13%	8 11%	8 11%	5 7%	4 5%	12 16%	4 5%	5 7%	3 4%	1 1%
	チームワーク	4 7%	2 4%	23 43%	3 6%	2 4%	3 6%	3 6%	2 4%	7 13%	2 4%	2 4%	1 2%
	倫理観	15 20%	22 29%	3 4%	5 7%	5 7%	7 9%	4 5%	2 3%	4 5%	2 3%	5 7%	1 1%
	積極性・リーダーシップ	5 7%	5 7%	21 31%	8 12%	2 3%	2 3%	2 3%	3 4%	14 21%	3 4%	1 1%	1 1%
	論理的思考力	2 3%	3 5%	1 2%	9 15%	12 19%	0 0%	1 2%	12 19%	1 2%	18 29%	2 3%	1 2%
	専門知識・技能	9 10%	9 10%	0 0%	9 10%	14 16%	11 13%	17 20%	11 13%	4 5%	2 2%	0 0%	0 0%
	自己研鑽	7 13%	9 16%	6 11%	6 11%	9 16%	1 2%	4 7%	6 11%	1 2%	4 7%	6 11%	3 5%
	企画力・計画力	1 1%	6 8%	7 10%	9 13%	8 11%	5 7%	4 6%	12 17%	3 4%	12 17%	4 6%	1 1%
	自己分析力	1 2%	4 8%	10 21%	14 29%	3 6%	1 2%	1 2%	4 8%	3 6%	6 13%	0 0%	1 2%
	幅広い教養	5 5%	9 9%	9 9%	15 15%	12 12%	8 8%	9 9%	7 7%	6 6%	7 7%	12 12%	1 1%
	情報リテラシー	4 7%	4 7%	6 10%	11 18%	7 12%	6 10%	2 3%	7 12%	1 2%	7 12%	3 5%	2 3%
	社会問題の理解	4 7%	10 17%	3 5%	11 18%	3 5%	7 12%	1 2%	3 5%	1 2%	2 3%	13 22%	2 3%
	語学力・国際感覚	1 2%	2 4%	11 23%	16 34%	4 9%	0 0%	0 0%	4 9%	3 6%	4 9%	0 0%	2 4%
	文章表現力	0 0%	2 4%	15 31%	12 24%	7 14%	3 6%	1 2%	3 6%	5 10%	0 0%	0 0%	1 2%
	合計	63 6%	115 12%	125 13%	136 14%	99 10%	64 7%	56 6%	92 9%	69 7%	83 9%	55 6%	18 2%

○グループ毎の回答比較

I の能力を発揮するためには、 どのIIの能力を養成することが 関連するのか？ →		II. 本学が学生に身に付けさせたい能力 (DPに掲げる能力)	
		※2018年度調査で、身に付いているという評価の順、上位4つが赤、中位4つが黒、下位3つが青	
		グループ① (上位2位)	グループ② (上位2位)
I. 実社会において必要と思われる能力 ※2018年度調査で、必要という回答が多い順(上から上位)	コミュニケーション能力 <構成割合>	患者本位の視点 (28%) 地域の保健・医療における実践的能力 (14%) 上位計：48% 中位計：26% 下位計：25%	患者本位の視点 (25%) 教育・指導能力 (19%) 上位計：38% 中位計：23% 下位計：39%
	問題発見・解決能力 <構成割合>	薬物治療における実践的能力 (17%) 患者・生活者本位の視点 (12%) 自己研鑽 (12%) 研究能力 (12%) 上位計：42% 中位計：45% 下位計：13%	患者・生活者本位の視点 (16%) 研究能力 (16%) 自己研鑽 (11%) 基礎的な科学力 (11%) 上位計：44% 中位計：39% 下位計：16%
	チームワーク <構成割合>	コミュニケーション能力 (41%) 地域の保健・医療における実践的能力 (11%) 上位計：63% 中位計：19% 下位計：18%	コミュニケーション能力 (43%) 教育・指導能力 (13%) 上位計：59% 中位計：19% 下位計：20%
	倫理観 <構成割合>	薬剤師としての心構え (34%) 患者・生活者本位の視点 (23%) 上位計：66% 中位計：20% 下位計：13%	患者・生活者本位の視点 (29%) 薬剤師としての心構え (20%) 上位計：60% 中位計：24% 下位計：15%
	積極性・リーダーシップ <構成割合>	コミュニケーション能力 (26%) 教育・指導能力 (24%) 上位計：48% 中位計：20% 下位計：31%	コミュニケーション能力 (31%) 教育・指導能力 (21%) 上位計：58% 中位計：13% 下位計：27%
	論理的思考力 <構成割合>	文章表現力・数的処理能力 (19%) 基礎的な科学力 (16%) 研究能力 (16%) 上位計：24% 中位計：49% 下位計：26%	文章表現力・数的処理能力 (29%) 基礎的な科学力 (19%) 研究能力 (19%) 上位計：24% 中位計：40% 下位計：34%
	専門知識・技能 <構成割合>	薬物治療における実践的能力 (24%) 研究能力 (14%) 上位計：28% 中位計：65% 下位計：7%	薬物治療における実践的能力 (20%) 基礎的な科学力 (16%) 上位計：31% 中位計：62% 下位計：7%
	自己研鑽 <構成割合>	薬剤師としての心構え (23%) 研究能力 (14%) 上位計：40% 中位計：41% 下位計：17%	患者・生活者本位の視点 (16%) 基礎的な科学力 (16%) 薬剤師としての心構え (13%) 上位計：39% 中位計：36% 下位計：20%
	企画力・計画力 <構成割合>	文章表現力・数的処理能力 (16%) コミュニケーション能力 (15%) 上位計：34% 中位計：34% 下位計：31%	文章表現力・数的処理能力 (17%) 研究能力 (17%) 自己研鑽 (13%) 上位計：32% 中位計：40% 下位計：26%
	自己分析力 <構成割合>	自己研鑽 (30%) コミュニケーション能力 (13%) 上位計：59% 中位計：21% 下位計：18%	自己研鑽 (29%) コミュニケーション能力 (21%) 上位計：60% 中位計：19% 下位計：19%
	幅広い教養 <構成割合>	自己研鑽 (18%) 国際感覚・異文化理解 (13%) 上位計：38% 中位計：33% 下位計：28%	自己研鑽 (15%) 基礎的な科学力 (12%) 国際感覚・異文化理解 (12%) 上位計：38% 中位計 36% : 下位計：25%
	情報リテラシー <構成割合>	自己研鑽 (16%) 研究能力 (14%) 上位計：37% 中位計：39% 下位計：23%	自己研鑽 (18%) 基礎的な科学力 (12%) 研究能力 (12%) 文章表現力・数的処理能力 (12%) 上位計：42% 中位計：37% 下位計：18%
	社会問題の理解 <構成割合>	国際感覚・異文化理解 (23%) 地域の保健・医療における実践的能力 (18%) 上位計：49% 中位計：23% 下位計：27%	国際感覚・異文化理解 (22%) 地域の保健・医療における実践的能力 (18%) 上位計：47% 中位計：23% 下位計：27%
	語学力・国際感覚 <構成割合>	コミュニケーション能力 (24%) 文章表現力・数的処理能力 (22%) 上位計：52% 中位計：19% 下位計：28%	自己研鑽 (34%) コミュニケーション能力 (23%) 上位計：64% 中位計：17% 下位計：15%
文章表現力 <構成割合>	コミュニケーション能力 (25%) 自己研鑽 (20%) 上位計：54% 中位計：23% 下位計：22%	コミュニケーション能力 (31%) 自己研鑽 (24%) 上位計：59% 中位計：29% 下位計：10%	

<2018年度調査で、「実社会で必要と思われる能力として回答が多かった上位5つの能力」発揮との関連>

- ・「コミュニケーション能力」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「患者本位の視点」が養成すべき能力最上位となっており、グループ②では身に付いている評価下位の「教育・指導能力」が養成すべき能力上位となっている。また、グループ②では身に付いている評価が下位の能力を養成すべきという構成割合が比較的高い。
- ・「問題発見・解決能力」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「患者・生活者本位の視点」「自己研鑽」が養成すべき能力上位となっており、グループ①では身に付いている評価中位の「薬物治療における実践的能力」が養成すべき能力最上位、グループ②では身に付いている評価中位の「研究能力」が養成すべき能力最上位となっている。
- ・「チームワーク」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「コミュニケーション能力」が養成すべき能力最上位となっており、グループ②では身に付いている評価が下位の「教育・指導能力」が養成すべき能力上位となっている。また、グループ②では身に付いている評価が下位の能力を養成すべきという構成割合が比較的高い。
- ・「倫理観」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「薬剤師としての心構え」「患者・生活者本位の視点」が養成すべき能力上位となっている。
- ・「積極性・リーダーシップ」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「コミュニケーション能力」が養成すべき能力最上位、身に付いている評価下位の「教育・指導能力」が養成すべき能力上位となっている。また、両グループで身に付いている評価が下位の能力を養成すべきという構成割合が比較的高い。

<2018年度調査で、「実社会で必要と思われる能力として回答が多かった中位5つの能力」発揮との関連>

- ・「論理的思考力」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価下位の「文章表現力・数的処理能力」が養成すべき能力最上位となっている。また、両グループで身に付いている評価が中位の能力と下位の能力を養成すべきという構成割合が高い。
- ・「専門知識・技能」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価中位の「薬学治療における実践的能力」が養成すべき能力最上位となっており、グループ①では「研究能力」、グループ②では「基礎的な科学力」が養成すべき能力上位となっている。
- ・「自己研鑽」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「薬剤師としての心構え」が養成すべき能力上位となっており、グループ②では「患者・生活者本位の視点」と身に付いている評価中位の「基礎的な科学力」が同率で養成すべき能力最上位となっている。
- ・「企画力・計画力」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価下位の「文章表現力・数的処理能力」が養成すべき能力最上位となっており、グループ②では身に付いている評価中位の「研究能力」が同率で能力最上位となっている。その他、グループ①では身に付いている評価上位の「コミュニケーション能力」、グループ②では「自己研鑽」が養成すべき能力上位となっている。また、両グループで身に付いている評価が下位の能力を養成すべきという構成割合が比較的高い。
- ・「自己分析力」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「自己研鑽」「コミュニケーション能力」が養成すべき能力上位となっている。

<2018年度調査で、「実社会で必要と思われる能力として回答が多かった下位5つの能力」発揮との関連>

- ・「幅広い教養」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「自己研鑽」が養成すべき能力最上位、評価下位の「国際感覚・異文化理解」が養成すべき能力上位となっており、グループ②では評価中位の「基礎的な科学力」が養成すべき能力上位となっている。また、両グループで身に付いている評価が下位の能力を養成すべきという構成割合が比較的高い。
- ・「情報リテラシー」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「自己研鑽」が養成すべき能力最上位となっており、グループ②では身に付いている評価下位の「文章表現力・数的処理能力」、評価中位の「基礎的な科学力」が養成すべき能力上位となっている。また、グループ①では身に付いている評価が下位の能力を養成すべきという構成割合が比較的高い。
- ・「社会問題の理解」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価下位の「国際感覚・異文化理解」が養成すべき能力最上位となっているが、両グループで身に付いている評価が上位の能力を養成すべきという構成割合が高い。
- ・「語学力・国際感覚」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「コミュニケーション能力」が養成すべき能

力上位となっており、グループ①では身に付いている評価下位の「文章表現力・数的処理能力」が能力上位、グループ②では「自己研鑽」が養成すべき能力最上位となっている。また、グループ①では身に付いている評価が下位の能力を養成すべきという構成割合が比較的高い。

- ・「文章表現力」の発揮にあたり、両グループで身に付いている評価上位の「コミュニケーション能力」「自己研鑽」が養成すべき能力上位となっている。

<実社会で必要と思われる能力全体の発揮について>

I の能力を発揮するためには、 どのIIの能力を養成することが 関連するのかわ? →	II. 本学が学生に身に付けさせたい能力 (DP に掲げる能力) ※2018 年度調査で、身に付いているという評価の順、 <u>上位 4 つが赤</u> 、中位 4 つが黒、 <u>下位 3 つが青</u>	
	グループ①	グループ②
実社会において 必要と思われる能力全体 <構成割合>	<u>コミュニケーション能力 (12%)</u> <u>自己研鑽 (12%)</u> <u>薬剤師としての心構え (10%)</u> <u>患者・生活者本位の視点 (10%)</u> 研究能力 (9%) <u>薬物治療における実践的能力 (9%)</u> 地域の保健・医療における実践的能力 (9%) <u>教育・指導能力 (8%)</u> <u>文章表現力・数的処理能力 (8%)</u> <u>基礎的な科学力 (6%)</u> <u>国際感覚・異文化理解 (5%)</u> 上位計：44% 中位計：33% 下位計：22%	<u>自己研鑽 (14%)</u> <u>コミュニケーション能力 (13%)</u> <u>患者・生活者本位の視点 (12%)</u> <u>基礎的な科学力 (10%)</u> 研究能力 (9%) <u>文章表現力・数的処理能力 (9%)</u> <u>教育・指導能力 (7%)</u> 地域の保健・医療における実践的能力 (7%) <u>薬剤師としての心構え (6%)</u> <u>薬物治療における実践的能力 (6%)</u> <u>国際感覚・異文化理解 (6%)</u> 上位計：45% 中位計：32% 下位計：21%
	全 体	
<構成割合>	<u>自己研鑽 (521 点 13%)</u> <u>コミュニケーション (518 点 13%)</u> <u>患者・生活者本位の視点 (419 点 10%)</u> <u>研究能力 (381 点 9%)</u> <u>薬剤師としての心構え (380 点 9%)</u> <u>文章表現力・数的処理能力 (342 点 8%)</u> 薬物治療における実践的能力 (340 点 8%) 地域の保健・医療における実践的能力 (338 点 8%) <u>教育・指導能力 (328 点 8%)</u> <u>基礎的な科学力 (285 点 7%)</u> <u>国際感覚・異文化理解 (222 点 5%)</u> 上位計：45% 中位計：33% 下位計：22%	

- ・グループ毎での養成すべき能力の構成の大きな違いについては、上表において下線で示す。
- ・身に付いている評価上位の「薬剤師としての心構え」については、グループ②では養成すべき能力下位となっている。
- ・身に付いている評価中位の「基礎的な科学力」については、グループ②では養成すべき能力上位となっている。
- ・身に付いている評価中位の「薬物治療における実践的能力」については、グループ②では養成すべき能力下位となっている。
- ・身に付いている評価下位の「文章表現力・数的処理能力」については、グループ②では養成すべき能力中位となっている。
- ・両グループで、実社会において必要と思われる能力の全体的な発揮にあたり、身に付いている評価が上位の能力を養成すべきという構成割合が高く、身に付いている評価が下位の能力を養成すべきという割合が低い。
- ・全体としては、身に付いている評価上位の「自己研鑽」が養成すべき能力最上位となっている。
- ・全体としては、身に付いている評価中位の「研究能力」が「薬剤師としての心構え」同等に養成すべき能力上位となっている。
- ・全体としては、身に付いている評価下位の「文章表現力・数的処理能力」が「薬物治療における実践的能力」「地域の保健・医療における実践的能力」同等に養成すべき能力中位となっている。
- ・全体としては、身に付いている評価中位の「基礎的な科学力」が養成すべき能力下位となっている。
- ・全体としては、実社会において必要と思われる能力の全体的な発揮にあたり、身に付いている評価が上位の能力を養成すべきという構成割合が高く、身に付いている評価が下位の能力を養成すべきという割合が低い。

以上